

**第8回東京都地域危険度測定調査委員会**  
**平成27年度（第2回）議事要旨**

日 時 2015年10月9日（金）10時～12時

場 所 東京都第二本庁舎 10階 207・208会議室

出席者 【委員・専門委員】

中林委員、山崎委員、荏本委員、糸井川委員、藤田委員、市古委員、  
稲垣委員、大佛委員、樋本専門委員、山下専門委員、福永専門委員、  
尾上専門委員

【関係機関】

辻課長、大竹課長（代理者）、白濱課長（代理者）、山下課長、佐伯課長

（議事内容）

委員会では、議題に沿って以下のような内容の検討や意見交換が行われた。

1. 委員会（第1回）における指摘事項と対応について

○事務局より第1回委員会における指摘事項と対応について説明

- ・ （委員了承）

2. 火災危険度の測定に係る検討について

○事務局より火災危険度測定における建物間延焼危険性に基づく出火と延焼の関係の  
検討結果について報告

- ・ 火災危険度の測定における耐火建築物からの出火期待値の低減について、今回の  
検討では加熱面と受熱面が正対している状態の計算結果であり、安全側の評価を  
行っている。
- ・ 建物の防災設計では、（受熱面の発火温度を）1000℃と仮定するので、今回も1000℃  
と仮定して輻射熱の量を計算した。
- ・ 建物には開口率がある。また、耐火建築物の規模によって内部が防火区画されて  
いる。一律に評価してよいのか。  
→今回の検討は、耐火造からの出火期待値を一定の比率で低減するという考え方  
である。開口率については、建物の個別の条件をどう考えるかということになる。  
また、建物内部の防火区画については、個々の建物の内部構造まで把握するのは難  
しい。
- ・ 建物相対角度や開口部の面積については、建物の大きさがわかっているので、平  
均的な開口率、開口面積を求めればそれほど面倒でないのではないか。
- ・ 地域危険度測定調査は基本的にマクロな世界で、どこまでミクロに条件設定する  
のかが問題である。
- ・ 着火限界の設定は、防火造や木造でも同じか。  
→着火するところが開口部もしくは開口部の内側の可燃物と考えているので、  
木造、非木造とも同じになる。
- ・ おそらく、大規模ビルほど延焼拡大する出火の確率は低くなる。火災部会で検討  
させてほしい。高層ビルの高層階からの出火は、おそらく市街地延焼には寄与し  
ないので、それを除去した形で火災危険度を出していきたい。高層ビルの集積し

ているところでも出火は起こりえるのだということを示すために、出火危険度は別に出しておく必要がある。

### 3. 災害時活動困難度の測定に係る検討について

○事務局より災害時活動困難度における道路閉塞率の影響及び災害時活動困難度の指標について報告

- ・ 道路閉塞率の計算の際、建物倒壊＝道路閉塞としているのか。建物倒壊の場合、「倒壊」と言っても「全壊率」を出しているのか、実際閉塞につながる割合はそのうち1/3～1/5になりそうな気がする。  
→閉塞に至る割合で計算している。
- ・ 瓦礫の流出というのは、建物が倒壊した時に瓦礫がどこまで行くかという距離をみるが、その確率をどのように見ているのか。  
→全壊のうち、倒壊になるものの割合を地区の中で出している。
- ・ 任意の地点から6m道路に出るまで、閉塞という状況下でどれくらい遅延が発生するか、距離とか時間、そういうのを指標にした方が分かりやすい。
- ・ 災害時活動困難度の指標について、一つの水準を定めてそれぞれの市街地の道路基盤整備状況がどれくらい乖離しているか、あるいは上回っているかを見ることは意味がある。
- ・ 災害時活動困難度というのは、結局何を示すもので、それを東京都がどのような防災都市づくり施策に活用するのが問題である。

### 3. その他の報告事項

(耐震改修の実施状況について)

- ・ 地震保険とかで、耐震改修すると安くなるということはないのか。  
→最近、地震保険にはいろいろ動きがあるので、調べていきたい。

(市区町への提供データについて)

- ・ 相対評価で表すと、危険度4, 5はすべて区部で、多摩地区は3と2と1なので、多摩地区は(各市町が)自分のところでランキングを作り直した方がよい。

以上